

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 24 日現在

機関番号：32633

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2010～2012

課題番号：22390415

研究課題名（和文）わが国の病院に勤務する看護師の交代制勤務のあり方に関する研究  
研究課題名（英文）Concerning the Direction of Shift Work by Nurse Working at Hospitals  
in Japan

研究代表者

井部 俊子（IBE TOSHIKO）

聖路加看護大学・看護学部・教授

研究者番号：50365839

研究成果の概要（和文）：わが国の病院に勤務する看護師の交代制勤務のあり方を探るため、ドイツ、フランス、イギリスの3カ国の看護管理者を対象としたインタビュー調査と視察を行った。さらに、欧州での調査結果に基づき、国内の専門家パネルを開催した。視察病院から得たものとして、わが国に適用可能と考えられるのは、多様な働き方の採用、10時間以内の夜勤時間、有給休暇の計画的取得、急な欠勤時の代替スタッフ確保のシステム構築、勤務計画作成支援ソフトの導入、勤務計画の早期提示、夜間他職種との業務分担、看護管理者及び看護師の労働法規や就業規則の理解の促進であった。わが国において、これらの適用を阻む要因として、「人員不足」という先入観、日本特有の価値観、労務管理に関する教育不足が考えられた。交代制勤務の改革における、業務改善、夜勤者の確保、急な欠員時の代替スタッフの確保、他職種との協働と業務分担、自律した組織の構築、風土・文化・価値の転換、技術開発・環境整備、働き方の教育の必要性について考察した。

研究成果の概要（英文）：In order to explore the state of hospital-based nurses' shift work in Japan; we first interviewed hospital nursing administrators and inspected hospitals in Germany, France, and Great Britain. Then, our domestic expert panel considered the results of our European data. As a result, we ascertained that the following items could be adapted for our country: (1) the flexible working pattern; (2) a night shift less than 10 hours; (3) planned acquisition of paid holidays; (4) construction of a system which secures the alternative staff for sudden shortfalls of nurses; (5) introduction of rostering and scheduling software which support shift management; (6) early presentation of a roster to nurses; (7) work is shared with other professionals at night; and (8) promoting the understanding of the labor law of nurse managers and nurses. We considered the factors, which might obstruct the adaptation of more humane shift work in our country as: the preconception of being shorthanded, a sense of values peculiar to Japanese, and the shortage of education about personnel management. The necessity for the following innovations in shift work was considered: improvements in operations; reservation of a night force; reservation of an alternative staff for sudden vacancies; collaboration and division of work with other professionals; construction of an autonomous organization; conversion of the organizational climate, culture, and values; technical development and environmental management; and education about humanistic ways of working

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	3,500,000	1,050,000	4,550,000
2011年度	2,600,000	780,000	3,380,000
2012年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	7,000,000	2,100,000	9,100,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学・基礎看護学

キーワード：看護管理学

1. 研究開始当初の背景

厚生労働省によりワークライフバランスの推進がなされ、その重要性が広く認識されている。看護師もまた、医療の高度化、医療の受け手の高齢化、重症化、医療安全に対する取り組みの強化に伴う業務工程数の増加などにより、過労を引き起こしていると言われ、昨年「全国で2万人の看護師が過労死レベルとされる月60時間以上の時間外勤務をしている」との推計を看護師の職能団体である日本看護協会が発表し、看護師のワークライフバランスに警告を発している。

看護師の交代制勤務のあり方の検討は重要な要素である。経験的に、わが国の病院勤務の看護師の疲労蓄積の最大の理由は日勤・夜勤を繰り返す勤務パターンであると考えられる。

Boulongne-Garcin(2006)らの報告によると、パリの病院で働くフランス人看護師は、日本とは異なり看護師は固定したシフトで働いていることが分かる。このようなフランスの看護師の勤務体制は、さまざまなシフトを渡り歩くことが当然と考えられてきたわが国の看護師の勤務体制のあり方を見直すきっかけを与えてくれる。

フランスをはじめとする欧州諸国における実態調査を行い、日本の病院に勤務する看護師の新たな勤務体制のモデル構築を行うことは、今後の看護師の人員確保、さらには安定した医療提供体制の構築の一助になるものと考えられる。

2. 研究の目的

本研究は、女性の就労を取り巻く制度・政策もわが国と類似している欧州諸国における、看護職の交代制勤務の現状と成立要因を文献並びに現地の視察等により多面的に探り、わが国への適用可能性を考察し、わが国における看護師の新たな交代制勤務体制の

あり方を提言することを目的とする。

3. 研究の方法

(1) 文献検討により、欧州諸国の医療制度、一般的な就労状況、看護師の就労状況を明らかにする。

(2) 欧州諸国において、交代制勤務を中心とした看護師の勤務形態に関する実態並びに就労継続のための工夫について視察を行う。

(3) (1), (2) を受けて、わが国の病院勤務の看護師のあらたな交代制勤務のあり方を提言する。

(4) (3) についてわが国の看護管理者との意見交換を行い、日本の看護師の勤務体制に関する意向を明らかにし、最終的な提言をまとめる。

4. 研究成果

(1) 欧州3カ国の視察調査

欧州諸国と日本の保健医療福祉のあり方をOECDの各種データを用い比較検討を行い、わが国と保健医療福祉のあり方が類似しているドイツ、フランス、イギリスを調査対象国に選定した。

ドイツの急性期医療において代表的な病院を2つ選定し、病院の視察と看護部長や看護師長を対象としたインタビュー調査を行なった。

その結果、看護管理者は、夜勤および交代制勤務をする看護師を確保するため、「労働時間に対する希望の受け入れ」「短時間勤務者導入による長期の離職の回避」「労働時間及び休暇の管理」を重要視していた。また、ドイツでは、EU労働時間指令により労働者には「24時間につき最低連続11時間の休息期間の付与」が義務づけられ「日勤-深夜」「準夜-日勤」といった勤務計画は存在しなかった。交代制勤務のあり方を検討するうえで、EU労働時間指令のような規制が有用であることが示唆された。

フランスにおいても同様の調査を行なった。

その結果、看護師は契約により決められたシフトに勤務しており、日ごとに違ったシフトに入る交代制勤務はなされていなかった。また、急な休みに対応するための特定の部署に所属しないフロートナースの雇用がなされていた。

イギリスにおいては、人的コストの削減と安全性の向上の両立を目的として勤務表作成ソフトが広く導入されており、これにより、「有給休暇」「労働時間」「スタッフの配置数」「スキルミックス」「出退勤」「勤務希望」が管理されていた。我が国で行なわれている16時間勤務のような長時間勤務や、「日勤-深夜」もしくは「準夜-日勤」といわれる右回りでは無いシフトの連続は見当たらなかった。さらに、看護師を経験レベルに応じて分類する「バンドシステム」があり、このバンドも考慮して看護師の勤務計画を立てることにより日々提供する看護ケアレベルの均一化を図っていた。看護師の急な休みへの対応として、バンクシステムと呼ばれる、病院グループが運営する看護師の派遣システムが機能していた。また、コストを勘案し、各病院の看護職を増員する動きもみられた。

(2)「これからの交代制勤務」の提案と評価  
ドイツ・イギリス・フランスの病院の看護管理者へのインタビュー内容を分析し、「これからの交代制勤務」として12項目にまとめた。調査結果を日本医療・病院管理学会第308回例会「ヨーロッパと日本の交代制勤務－看護師の健康な働き方を考えよう－」にて報告した。例会参加者221名を対象に質問紙調査を行い、「これからの交代制勤務」12項目について、「採用したい程度」と「実現可能性」を5段階で問うた。分析の結果、採用したい程度が最も高かった項目は、⑨「急な欠勤への代替スタッフ確保のシステムの構築」平均値4.40 (SD±0.84)、「実現可能性」が最も高かった項目は、⑫「看護管理者及び看護師の労働法や就業規則の理解と徹底」平均値3.71 (SD±0.84)であった。一方、「採用したい程度」、「実現可能性」ともに最も低かった項目は、③「夜勤者と日勤者の固定」平均値2.78 (SD±1.20)、平均値2.29 (SD±1.13)であった。自由記述では、①「夜勤勤務時間を10時間程度とする」、④「希望や契約により多様な働き方が可能」、⑩「年間にわたる計画的取得で有休取得の促進」などの項目に関連して、人員不足のため実現困難という意見があった。また、⑪「週末のみの短時間勤務などのフレキシブルワーキング」の項目では、「平等」を重んじる風土があるため実現困難という意見があった。

「これからの交代制勤務」の実現を可能にするための方策として、人員増の前に業務改善に取り組むこと、看護管理者、一般看護師ともに労務管理に関する教育が必要であることおよび多様性を許容しワークライフバ

ランスを推進していく考え方を身につけること、次の勤務帯の看護師に対する行き過ぎた気づかいをやめ、終業時刻には速やかに業務を引き継ぐことで超過勤務時間の削減と疲労の蓄積の排除に取り組むことが考えられた。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計2件)

- ① 倉岡有美子, 中村綾子, 井部俊子, 看護師の「これからの交代制勤務」に関する提案と評価, 日本看護管理学会第17回年次大会, 2013年8月24, 25日, 東京ビッグサイト (採択)
- ② 安井はるみ, 奥裕美, 井部俊子, フランスにおける看護師の交代制勤務の実態調査, 日本看護管理学会第16回年次大会, 2012年8月24日, 札幌コンベンションセンター

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況 (計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

- ① 井部俊子, みんなで作る勤務表, 第95回看護のアジェンダ, 週刊医学界新聞, 2012年11月19日
- ② 井部俊子, パリのナースの勤務, 第88回看護のアジェンダ, 週刊医学界新聞, 2012年4月23日
- ③ 井部俊子, 看護師の夜勤への警告「日勤 -

深夜」「準夜 - 日勤」「16 時間夜勤」, 第  
75 回看護のアジェンダ, 週刊医学界新  
聞, 2011 年 3 月 21 日

6. 研究組織

(1) 研究代表者

井部 俊子 (IBE TOSHIKO)  
聖路加看護大学・看護学部・教授  
研究者番号 : 50365839

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

伊東 美奈子 (ITO MINAKO)  
聖路加看護大学・看護学部・助教  
研究者番号 : 0055078

倉岡 有美子 (KURAOKA YUMIKO)  
聖路加看護大学・看護学部・助教  
研究者番号 : 30584429

中村 綾子 (NAKAMURA AYAKO)  
聖路加看護大学・看護学部・助教  
研究者番号 : 60459254